

第4回松本市教育振興基本計画策定委員会 会議録

1 開催日時 令和8年8月28日（金） 午後2時00分から午後3時40分まで

2 場 所 松本市大手公民館 大会議室

3 出席委員

委員長	荒井 英治郎 氏
委 員	大久保 秀樹 氏
委 員	相馬 路子 氏
委 員	高山 智史 氏
委 員	永塚 博 氏
委 員	西森 尚己 氏
委 員	平林 文 氏
委 員	松島 恒志 氏
委 員	宮内 かつら 氏
委員長職務代理	吉原 寛 氏

4 事務局 曾根原教育長、赤羽教育次長、山名教育監、小西教育政策課長、内山学校教育課長、輪湖学校給食課長、野口生涯学習課長、藤森中央図書館長、上嶋生涯学習課長補佐、竹内教育政策課係長、大久保教育政策課主任、伊藤教育政策課主任

<会議事項>

(1) （報告）前回委員会での質問への回答

担当課不在のため回答できなかった内容について、小西教育政策課長が報告

ア スポーツ、文化芸術・歴史の計画にインクルーシブな視点が含まれているか

「インクルーシブ」のそのままの字句は記載されていませんが、両計画の理念・目標には、インクルーシブな視点が反映されています。

イ 国スポ・全障スポ大会開催を契機としたインクルーシブスポーツや多文化共生の視点での対応の状況

子どもたちにパラスポーツやインクルーシブスポーツの関心を高めてもらい、親子での来場を促進する啓発活動を企画しています。

(2) （協議事項）第4次松本市教育振興基本計画の「キャッチフレーズ」について

曾根原教育長が説明、「みんなで学び みんなでつくる 学都松本」を提案

委員からの意見

（委 員） 学びの学都にしているのは、教育の計画だからか。

（曾根原教育長）

そのとおりです。

（委 員） 「作る」、「創る」の意味の違いを明確に表すために、漢字で「創る」を使った方が分かりやすいのではないか。

- (委員) 柔らかさの観点から、敢えてひらがなにするという意図もあると思う。
- (委員) 学校だけでなく地域も一緒に、子どもだけでなく、生涯学習なども含めてみんなで取り組むことは良いと思う。
- (委員) 文字だけ見ると「みんな」という言葉に「大多数」や「一体感」というイメージがあり、「みんな」に入っていくことが難しい個人にとっては、少し苦しい印象がある。代案が出せないが、意図する理念がうまく伝わる言葉かどうか。
- (委員) 視点によって、個人主義、集団主義という批判もあると思う。しっかりと理念を伝えていく必要があると思う。

(曾根原教育長)

「みんな」には「関係する人が力を合わせて」という願いを込めています。フレーズに込めた意味をきちんと説明していくことも考えます。

- (委員) 「みんな」を「ともに」に変えるのはどうか。ただ、学校教育で浸透している「みんな」を拡張していくという意図もあるかと思う。

- (委員) やわらかい印象を意図して、「学都」をアルファベット表記するのはどうか。ただ、音の響きが強い・痛い印象があるので難しい。

(3) (協議事項) 第4次松本市教育振興基本計画(素案)の検討 分野・方針の構成案

竹内教育政策課係長が説明

委員からの質疑・意見

- (委員) 学校を社会全体で支えていくという文化、雰囲気を作り、地域に学校の応援団ができていくことが重要と思っているため、教育の次に地域分野が置かれるのは良いと思う。
- (委員) デザインに関連して、分野の色は順番にグラデーションになるようにしてあるため、成案では整えてほしい。
- (委員) 人権共生の方針3に関して、「インクルーシブな教育」と「インクルーシブ教育」では意味が変わってくると思う。また、「推進」と「充実」が併記されているので、「インクルーシブな教育・特別支援教育の推進」としても良いのではないか。

(曾根原教育長)

「インクルーシブな教育」とすることで、より広い概念で、通常学級でも理念を反映していく意図があります。記載に関しては、同意いたします。

(4) (協議事項) 第4次松本市教育振興基本計画(素案)の検討 素案

竹内教育政策課係長が説明

委員からの質疑・意見

- (委員) 「連携」と「担当・関係」の違いはどんな内容か。

(伊藤教育政策課主任)

「担当・関係」は、複数の部署で同様の事業を実施している場合の表記です。

- (委員) 「主管」は予算計上をするセクションという認識で良いか。

(伊藤教育政策課主任)

そのとおりです。

ア 分野1「子育て」

(委員) 方針1の成果指標について、解決方法を知っていることよりも、悩みごとが解決につながったかということが指標として重要ではないか。

(委員) 事業の連携先について、児童園や児童相談所など、県の施設との連携もしていると思うが、記載しないのか。

(竹内教育政策課係長)

県など様々な部署との連携があるため、記載できる内容は検討いたします。

(委員) 成果指標は、一つ一つの施策の方向性の内容に対応する形で記載するのか。

(委員) 全ての指標を記載していくと膨大になってしまうため、主なものを記載することになると思う。

(曾根原教育長)

各事業の細かな成果指標など、事業点検表のようなものは別に冊子がありますので、計画には全ての成果指標を記載しません。

(小西教育政策課長)

事業点検表の指標についても、見直しの必要があると考えており、検討を進めます。

イ 分野2「教育」

(委員) 方針3に教職員のメンタルヘルスケアの要素を加えることは良いと思う。「負担感のある業務を軽減」の記載は、肩の荷が下りる印象もあるが、一方で誰かにしわ寄せがあるようにも読めてしまうので、書き方を検討してほしい。

(委員) 教職員の定数改善を国・県に働きかけるという項目を入れてはどうか。

(曾根原教育長)

現状、国・県に働きかけは行っていますが、事業として計画に記載し、実施した成果を検証することは難しいと考えます。

(委員) 福祉や医療に比べて、教育の役割が分からないという教員もあり、教員が自信を持てなかったり、やりがいにつながっていない状況がある。改めて、教育の意味や目的が分かり、教員が自分の役割を認識できるように発信することも必要ではないか。

(曾根原教育長)

働き方改革として、単に業務の時間を減らすのではなく、教員のやりがいや役割をどう認識してもらうかが重要と考えています。分野・方針の前段、「計画の特徴」などの箇所に、松本市の考える教育とはどんなものか、教員に期待するメッセージを記載してはどうかと考えています。

(委員) 個人の「やりがい搾取」ではなく、努力し続ける環境を整えていくことが必要である。

(委員) 方針1の現状と課題、施策の方向性の(1)、(2)の内容は、重複している内容などがあるので、整理してほしい。

(委員) 方針名には「遊び」が入っているのに、施策の方向性の中にはほとんど記載がない。記載を検討してほしい。

(委員) 方針5の(5)について、居場所での過ごし方は、学びだけでなく遊びなど様々な活動をしているため、書き方を検討してほしい。

- (委員) 方針5のはぐルッポ運営事業の連携先には教育委員会を記載してほしい。
- (委員) 方針1の(4)について、小中学校間の連携についても記載してほしい。
- (委員) 方針2の成果指標になっている、高校の探究時間の支援とはどんなものか。
- (委員) 若者参画課で実施している問合せや相談等での支援であると思う。

ウ 分野3「地域」

特になし

エ 分野4「社会教育」

- (委員) 方針1の施策の方向性(4)について、高校や大学をドロップアウトした先の就労に向けた支援が必要と考えるが、そういった内容が含まれているのか。また、中学校では高校進学後の状況を十分に追えないので、困ったという声がある場合にしか支援されない状況がある。

- (委員) この部分に関わる事業はどのようなものがあるのか。確認しておいてほしい。
(曾根原教育長)

現行の計画では青少年ホーム事業が掲載されていますが、確認いたします。

- (委員) 法的な支援以外に、就労支援の事業所や各事業所などによる支援が行われている状況。障がい者支援の部分も入り、法律のはざまになっていると思う。

(野口生涯学習課長)

以前所属していた部署に関する内容ですのでお答えします。福祉政策課で、重層的支援体制整備事業が対象になっており、手帳の有無に関わらず切れ目のない支援をしています。就労支援は産業振興部、障がい者福祉に関わる部分は健康福祉部の担当で支援しており、連携しながら行っています。

- (委員) 方針1の(5)について、「デジタル・シティズンシップ教育」という表記がふさわしいのではないか。

- (委員) 方針3の平和教育に関して、人権教育の1分野になるのではないか。

(小西教育政策課長)

主に平和人権共生課が担当しているため、確認して調整します。

- (委員) 方針2の図書館の事業の成果方針について、外に出て行う事業に関する指標もあると良いと思う。

- (委員) 方針3に関して、どうして戦争が行われているのかという分析が無いと、戦争をまた繰り返してしまうと思う。

- (委員) 新たに加えられた(3)の内容が該当してくると思われる。

- (委員) 方針4の(2)のトイレの洋式化に関しては、男性トイレに比べて女性トイレの数が少なく、改善も重要ではないか。

(曾根原教育長)

そのようなニーズにも対応した整備を進めていきます。

- (委員) 「学都ラボ」のプラネタリウムや展示はどうなるのか。

(曾根原教育長)

プラネタリウムは残し、展示スペースは先進的な取組みを計画しています。内容は非公開としています。

オ 分野5「人権共生」

- (委員) 方針2の現状と課題、施策の方向性の(1)と(2)の項目について、一方はジェンダー

しか記載されていないが、一方はジェンダーとセクシュアリティの両方が記載されているため、統一されたい。

(委 員) 方針2の(3)に日本語教育の内容が記載されているが、主な事業には日本語教室の記載がないのではないか。

(野口生涯学習課長)

多文化共生事業の中に含まれています。書き方・見せ方は検討いたします。

(委 員) 方針2の成果指標について、外国人と関わりがある住民の方が困り感を抱えていることが多いため、直ちに共生が進んでいるということにはならない。

(委 員) 方針2の施策の方向性(1)に建設的対話が入っているため、合理的配慮の提供をセットで記載してほしい。

カ 分野6「食」

特になし

(閉 会)